

ミッション指向の研究の原則に関する宣言（日本語仮訳）



前文

ミッション指向の研究は、現代のさまざまな世界的重要課題に取り組むための新たなモデルである。世界的重要課題は、ますます多様化し、複雑になり相互に関連するようになっており、広範でグローバルな学際的かつ分野横断的な対応が必要である。ミッション指向の研究は、これらの課題に取り組むための社会的意図に変化または影響を生み出すメカニズムの一可能性を提供する。これらの意図は、優先順位の設定から解決策の提供に至るまで、社会における広範な関係者と協力し、協議することで最もよく実現できる。

ミッション指向の研究は、ソリューションベース、つまり結果指向のアプローチを活用することで、特定の目標達成に向けて体系的で幅広いアプローチを提供することを目的としている。すなわち「重大な問題に対応するために登用された大規模な学問」と言えるだろう。研究イニシアチブを設計・実装するためのこのようなアプローチは、合意され証拠に基づいた一連のエンドポイント、つまり「ミッション」に向けて連携するために、世界的な研究コミュニティの能力や関心をよく活用する可能性のあるモデルとして登場した。

新型コロナウイルス感染症は、世界的な課題がミッション指向の研究を通して取り組まれることの時宜を得た事例である。ウイルスを抑制し、徹底的に根絶するために充分なリソースの動員を確保するには、学術振興機関間の協調的 efforts が欠かせない。こうした課題への対応に柔軟なアプローチを取ることにより、研究コミュニティは刻々と変化する社会のニーズに適応できるようになるだろう。

国連の持続可能な開発目標（SDGs）は、国連のアジェンダ2030の一部として設置され、種々の異なる枠組みからある特定の事例を提供している。2019年に国連は、2030アジェンダの採択以来初のSDGサミットを開催し、国際協力と世界的なパートナーシップの強化を通じて、課題を解決することを約束した。国際的な科学技術イノベーションコミュニティは、SDGsによって明確にされた課題に取り組み、持続可能な開発への変革を可能にするためにすべての分野からの科学的証拠の使用を促進する上で重要な役割を果たす。

GRCの参加者は、世界的重大課題の達成に向けた、グローバルな研究やイノベーションエコシステム、そしてそれに続く種々の理解やアプローチ、優先事項の多様性と多元性を認識・尊重し、評価する。さらに研究のこのような多元的性質に直面している種々の世界的規模の課題は、GRC参加機関の間で、広範な経験とアプローチを比較し教わり合っこの課題に取り組むことの重要性を保証している。

ミッション指向研究の原則と取り組み

GRCの参加者は以下のことに同意する。

1. ミッションは、特定の課題に対処するための様々な潜在的アプローチや解決策を可能にする、幅広く、長期的かつ結果指向のコミットメントであるべきである。したがって、ミッションは柔軟性があり、必要に応じてミッションの範囲の優先順位付けの見直しおよび・または拡張が可能であるべきである。
2. ミッションには、研究資金の新しい革新的で包括的（すなわち幅広い利害関係者、学問分野、セクターからの能力を統合し、新しいモダリティを採用して新しい能力を開発し、効果的かつ互恵的な知識交流の実行によって支えられた）モデルが必要である。
3. ミッションを達成するための、すべての学問分野や基礎科学・応用科学の両分野を網羅するような幅広いアプローチが求められている。ミッションに向けて効果的かつ全体的なアプローチを提供する上で、学際的な研究同様、社会科学と人文科学の果たす役割は重要である。
4. ミッションを立案し実施する際は、国相互の共通性と多様性も考慮に入れるべきである。
5. ミッションはまた、戦略的研究と同様に好奇心に基づいた学問にも様々な機会を提供し関与すべきである。
6. 国や地域の優先事項、状況、能力、戦略も適切に認識され、より広範な地域的および世界的な枠組みとともに、ミッションの範囲とアプローチに統合されなければならない。
7. アフリカ連合のアジェンダ 2063 などの地域的枠組みと同様に、持続可能な開発目標（SDGs）などのより広範でグローバルな取組を用いることは、これらのミッションを開発およびクラスター化するための可能な枠組みを身近に提供することにより、ミッションの戦略的アプローチを導くのに役立つ。
8. 持続可能な開発目標（SDGs）は、ミッション指向の研究に利用可能なひとつの特定な枠組みを示す一方、そのようなミッションの基盤として機能させるために適用しうる多様なフレームワークが存在する。
9. 持続可能な開発目標（SDGs）は、ミッション指向の研究に利用可能なひとつの特定な枠組みを示す一方、そのようなミッションの基盤として機能させるために適用しうる多様なフレームワークが存在する。たと

例えば、米国国立科学財団によって資金配分されている Convergence Accelerator は、幅広い分野にわたるパートナーシップを活用して、国内および世界的に重要な分野での用途を考慮した研究をサポートしている。

10. ミッションのモニタリングと評価は、それらの影響の効果的なコミュニケーション同様、より幅広い利害関係者にこれらのミッションの利益と価値を効果的に示し、その幅広い支援と協力を得るために必要である。

ミッション志向の研究とパブリックエンゲージメントについてのGRCテーマへの関わりについての原則

GRCの参加者は以下のことを認識する。

11. ミッション志向の研究とパブリックエンゲージメントのテーマの間には、地球市民のニーズと利益に対応するミッションの設計と実装の重要なコンポーネントとして認識されているパブリックエンゲージメントと併せて、強力で相互に包括的な関係がある。
12. 市民だけでなく、市民社会における多様な組織、国所管のさまざまな機関、民間および公的事業部門、および多数の教育・学術組織など、幅広い公衆が、ミッションの特定、開発、提供、およびそれらの成果による利益に関与しており、ミッションを伴うコンセンサスと包括的なパブリックエンゲージメントの確保に不可欠である。
13. 研究は特定の目標に貢献することができるが、社会的および世界的な重要課題を単独で解決することはできない。そのためミッション志向の研究は、政策立案、教育、ガバナンス、および社会との対話に通じている必要がある。
14. 恵まれないコミュニティの人々を含めた能力開発と知識交流のイニシアチブは、ミッションの質と投資をさらに強化するのに役立つ。

GRCとその参加組織の役割に関する原則

GRCの参加者は以下のことを表明する。

15. 資金配分機関は、これらの意図の実現において自らに限界があることを認識しながらも、そのミッションへの資金拠出のための長期的かつ持続可能なメカニズムと共に、世界的重要課題の動的で急速に変化する性質に柔軟に対応できる短期的なメカニズムを提供することにより、ミッション指向の研究の継続的な開発と使用を支援できる。
16. ますます増加するGRC参加機関間の国際的な協力関係を育むことは、世界的重要課題への対処を援助するために幅広い独自のスキル、専門知識、リソースを集結することにより、各国がミッション指向の研究枠組みを通じて新たな課題に適切に対応できるようにするという点で重要である。
17. ミッション指向の研究を支援および促進する上でのGRCの役割は、幅広い利害関係者との協議において強力で団結した発言を提供すること、および原則の声明の発表と承認を通じて効果的なミッションを開発するための共通の理解と枠組みを育むことである。

世界的重要課題に取り組む際のGRC参加機関による協調的アプローチの要望と必要性に関する更なる考慮事項

GRCの参加者はまた、以下へ進むことを認める。

1. 世界的重要課題の達成を目指すミッションの完遂を支援するために、資金配分機関が協力する必要。
2. 「世界の研究助成機関間の能力開発と連携の原則に関するGRC宣言」（2017）に沿って、共通の目的と自発的な協力を追求するという、これらの機関の継続的な意図。
3. SDGsの枠組みを通じて支えられた国連の持続可能な開発のための2030アジェンダは、共働活動に対する共通の理解とアプローチを発展させるためのタイムリーで重要な機会を提供していること。
4. GRC参加者間の協調的な共同行動の機会を特定し、発展させることは、SDGsの達成をさらに促進し、ひいては国連のアジェンダ2030が提示する機会を活用することになるだろう。
5. この世界的規模の課題は絶えず変化する性質のものであり、協調した仕方で迅速に適応し対応することが、学術振興機関に求められる。新型コロナウイルス感染症は、このような国際間での協調的な研究助成と協力の重要性を明示している。